

福岡市環境審議会循環型社会構築部会議事録

1 日 時 令和元年 12 月 23 日（月）14：00～15：15

2 場 所 アクロス福岡 607 会議室
（福岡市中央区天神 1 - 1 - 1）

3 出席者（敬称略）

・福岡市環境審議会委員

	氏 名	役 職 等
部会長	松 藤 康 司	福岡大学 名誉教授
	伊 藤 嘉 人	市議会議員
	大 森 一 馬	市議会議員
	小 出 秀 雄	西南学院大学 経済学部 教授
	平 由以子	特定非営利活動法人 循環生活研究所 理事
	中 山 裕 文	九州大学大学院 工学研究院 准教授
	久 留 百合子	(株) ビスネット代表取締役／消費生活アドバイザー
	松 野 隆	市議会議員

4 会議次第

(1) 開 会

(2) 議 事

・「新循環のまち・ふくおか基本計画」の今後のあり方について

(3) 報 告

・災害廃棄物処理の広域支援について

(4) 閉 会

5 議事録

議事 「新循環のまち・ふくおか基本計画」の今後のあり方について

【事務局】

（資料 1 の「4 「新基本計画」の策定において考慮すべき視点」まで説明）

【部会長】

どうもありがとうございました。

今事務局からこれまでの経緯等を、今後の大きな問題、特に基本計画の全面的な見直しが提案されました。ただいまの内容につきまして、ご質問やご意見がございましたらお受けいたしますので、よろしくお願いいたします。どなたからでも結構です。

この前の基本計画は、「元気が持続する循環のまち福岡」ということで、ここにいます何名か

の委員の方が関係しておりましたので、一端の責任もありますけれども、基本計画策定後の話を、事務局でコンパクトにまとめていただいております。考えてみますと、2011年の九州新幹線が全線開通する前に基本計画を作っております、一応人口は増えるだろうということだったんですけれども、1年間に1万人増えるというのは、当時としては、あまり見込んでなかったというのが正直なところですよ。

ですから、この10年間で約10万人、すなわち、宗像市と同程度の人口が増えたような形の中で推移しているわけですから、その分のごみそのまま反映されたら、このグラフに書いている以上に伸びていたはずなんですけど、横ばい状態だったら一般の市民の方、それから事業者も努力した一定の効果が出ているんですけども、それでもかなり計画よりも乖離している問題であるということです。

思い出していただくと、2011年の前にまさかこんなに、特に中国、韓国から福岡に来るお客さんがここまで増えたっていうのは見込まれていなくて、今年はちょっと減っているんですけど、こうした部分が交流人口という表現をされているところですよ。

喫緊の話では、ソフトバンクがずっと優勝して、いつもAクラスで毎回約四万人がドームに来る。これも、ごみの排出量からすると無視できないところですよ。

また、博多駅の前を見ていただくと、びっくりするぐらい人が多いということ、最近、いろいろ街の見直しで、天神ビックバン構想っていうのを市がやっておりますけども、これもある面では、ごみの増加の一端になる可能性も十分あります。

それから、地下鉄の延伸や、特に問題は、自然災害が九州北部豪雨のような水害、それから台風、台風の大きさを考えると、最悪の場合は、今回千葉で起きたような、ああいふブラックアウトの可能性も否定できないわけです。これに対応できているまちづくりかと言うと、ちょっと問題があるなと思います。

その他に、まだ表面に出てきておりませんが、若干ですけどもやはり高齢者の人が福岡も増えつつあります。そうすると、この間テレビなどで報道されてはいたけれども、ごみの出し方の問題だとかそういうことを考えると、これの対応のやり方も考えていかないとすれば、ちょうど中間目標年度で令和にもなりましたので、思い切って全面的に見直したらどうだろうかということではないかと思います。

ただ、勘違いしないで欲しいのは、「元気の持続する循環のまち」というキャッチコピーでやってきましたので、これが、あんまり元気がなくてもいいということに方針を変えてしまうというのは、これが福岡の売りですので、やはり元気を持続しながらごみを減らす、増やさないようにということだろうと思います。

その他に非常に難しいのは、プラスチックが非常に注目されている。現計画策定当時はマイクロプラスチックという言葉は専門家の中でしか知られてなかったんですけど、最近、マイクロプラスチックが海だけじゃなくて内陸部でも飛び散っているという指摘もされておりますので、そういうことを考えると、ちょうどこの時期に思い切って全面改定を検討したらどうかというのが事務局の提案だと思います。

そういうところで、色々な意見を言っていただければと思います。よろしくお願いたします。

【委員】

部会長がほとんど言ってくださったんですけども、私も以前から関わっていて、市民1人

当たりの1日のごみ処理量というのが減ってるっていうのは、これは一つ評価できると思うんですね。やっぱりそれなりに、どうやったらごみが減るのか、特に人が排出する量が減ってくるかっていうのは、きちっとされてきたんじゃないかなというふうに思いますね。

それから事業者についても、そんなに増えていないということで、それは評価できるんですけども、やっぱり問題は今、天神ビッグバンで言われているように、これからオフィスの数が増えると思うんですね。

というのが、あれだけビルを壊して、高い建物をもっと高いのを作ってオフィスの数を増やしていくっていうことは、それだけオフィスが誘致できるという、希望があるというか予定であるから、あれだけのことをすると思うんですね。

だからそう考えていくと、それなりのオフィスが増えればやっぱりごみも増えるでしょうし、それからやっぱりごみの排出の問題とか、リサイクルの問題とかそういうところをやっぱり新たな展開に向けて見直しをしていかなくちやいけないんじゃないかなというふうに思いますね。

それと同時に、やっぱりさっき部会長がおっしゃったように、私も福岡で思うのは、やっぱり少ないとは言いながら高齢者がやっぱり多くなっていく、それから、高齢者の単身世帯が、多くなっていくと思うんですね。私も実は2年前に母を亡くした時に6年ぐらい1人で暮らしていたんですけども、もういくら言っても、やっぱりごみを分けるとか、それからいただき物の箱を分解して出すとかそういうことが高齢者は難しいんですね。

ですからそういうことも、高齢化とか単身者が増えていくということを踏まえたうえでのごみの出し方の問題なりリサイクルの問題なり、そして、やっぱり減量していくということはどうやっていくかっていうのは、やっぱり新たな展開を考えていかなくちやいけないんじゃないかなと、絵にかいた餅ではやっぱり駄目だと思うんですね。

そういうことをちょっと感じましたので、総論としては、大体網羅されていると思います。あとはやっぱりきめ細かい施策をどういうふうに作っていくかっていうことではないかなという気がします。

【委員】

わかりやすい資料ありがとうございます。2ページ目の4の新基本計画の策定において、考慮すべき視点のところで、経済的指定の検討とかにサーキュラーエコノミーの考え方が入っているんですが、多分こういうのって上であって、下にその福岡ならではのアジアの玄関口という何かちょっと目標めいたものが福岡市特有のところに入って基本計画ができていくので、今後基本計画を改定する時に何度も出てくるような項目だと思うので、このブルーの福岡市特有のところをもうちょっと絞って、何か福岡市が特に力を入れているところっていうのを皆に共通化していくことが、より何か福岡市が、市民が福岡の誇りを持って守っていく計画になるんじゃないかと思いますので、より具体的なこの人口増のこととかも調べられているので、そういうことを下に落とし込んで、上の方には今の流れのライフスタイルの変化で、福岡にはどういう特に変化が、大学が多いとか少ないとか、指定の街だとかそういうことを活かして、さらに、もうちょっと絞った方がよりよい計画が立てられるというふうに感じました。

【委員】

本当にたくさんのデータが出てきて、バックグラウンドも含めて、よく理解できました。ま

ず1番の基本計画の(1)の図1ですね。ちょっとこれみて今のデータと将来のデータを比べたら、青い部分はいい線で推移しているんですけどやっぱり赤い部分の事業系ごみの方がかなり開きがあるように図からは見えます。

それで、私実は10年以上エコアクション21っていう事業者向けの環境会計システムの判定委員をさせていただいているんですが、福岡市内の業者で登録している業者が、確か200から300ぐらいだったと思います。だんだん増えてきて大分増えたねって話をしていたんですが、今日このデータ見ると、福岡市の事業所数って何万とかで、そういうふうに考えると全然、全体数からすると、やはりその環境意識を持って、事業の環境負荷低減、取り組んでいるというところはそんなにまだまだ多くないと思いました。

それと登録している業者っていうのは、結局廃棄物処理業とか建設業で、その認証登録を受けるとなんかこう、ポイントがもらえとか、入札の時もポイントがもらえとか、市がこれを取らないと契約しないからって言われたとか、そういうことで取っている業者が多くて、自発的にやっていることまだまだ少ないんですよ。そう考えると、この赤い部分のグラフをもっともっと事業者の方に理解してもらって、ごみを減らしてもらうためには、ごみを減らせ減らせと言うだけじゃなくて、減らすと何かいいことがあるということ、行政の側からもう少し整備していくことも、重要なのかなというふうにちょっと感じました。以上です。

【委員】

非常に内容がいいので私何もコメントもないんですけど、人口増加している中で、大学にいる人間からすると、学生が結構地方から結構来てるんですけど、山口とか岡山も含めて、福岡に就職したいと、地元に戻りたくないっていう学生ばかりになってくるので、なんか今後もこの増える傾向って変わらないのかなって思いつつも、あとは、西新近辺にうちの大学もありますから、プラリバで今すごいマンションを作っていて、そこも当然人口も増えますし、あとは身の回りを見てもこの人口増えて止まらないので、このごみ量の目標っていうのを前から見えていて、人口増は抑えることできないっていうことを常々思っていましたので、今回、見直しできるっていうことで、非常に個人的には、いい機会だと思います。以上です。

【委員】

今本当に個人でも企業でも、様々な取り組みが広がりつつあって、一生懸命ご努力をさせていただいているところなんですけど、これをどう、もっともっと広げていくかっていう、そういう視点が大事だろうなと思います。

さっき、先生おっしゃったように元気が持続するということですので、あんまりこう大上段状態に構えては、元気がなくなってしまうんじゃないかっていう気もしますので、その辺の匙加減が非常に難しいかなというふうには思います。

ただやっぱり一つ、福岡市の環境をどうするかっていう視点もそうなんですけど、この世界の現状に対して、市民一人一人が何ができるかっていうような、そういう視点でやはり啓発をしていくというところが、今のこの取り組みをもっとこう広げていくことに繋がっていくんじゃないかなというふうに思いますし、もう一つはやっぱり、今たった1人の青年の情報発信が本当に世界に与えているインパクトを考えたときに、やっぱりその子供さんたちに対する環境教育というのを、どうもっと進めていくかという視点は絶対に外しちゃいけないだろうなというふうに思います。

そういう意味では教育現場とどう連携していくかという視点もできれば加えていただきたいなというふうに思っております。よろしく願いいたします。

【部会長】

はいどうも。先ほども委員の方から出ていますように、1万事業所くらい増えて、基本的に結構中小零細の事業者が多いものですから、なかなかそのいろんな認証制度あってもですね、努力すれば報われる得するところ、やや気持ちだけではちょっと持続できないかなというのがあるんですけども、その辺を少し何か、システム的に採用できれば、そういうのを考えてもらいたい。

それから、委員がおっしゃったように、やはり世界全体というのと、福岡を対比したときにちょっと力加減が違うかもしれませんけども、やはりアジアで、特に中国、インドそれから韓国、アジアに対しての一つのモデル的なものが、かなり重要かなっていう気がしますので、この辺りはまだ十分議論しておりませんので、もし見直しが決まればやらせていただきたい。

それともう一つ環境教育に関連しますけれども、広報関係がなんかやっぱりいまいち地味というか下手というか、特に市長もマスコミにいた方なので、もう少しこういうことに対しても、積極的に発言して欲しいなと思うんですけど、いまいちなんかちょっと見えないんですよ。だから、今回は、この見直しの中にそういう専門の広報のプロじゃなくていいんですけど、上手なキャンペーンのやり方のアイデアを持っている方にも、参画していただければいいんじゃないかっていうのは、個人的には思っているところです。

それと、学生が全国で3番目ぐらい多い街なんですね。学生も一時は結構U-30とか色々あったが、最近はある程度関心を持っているのか、持っていないのかが見えない。委員の先生のところの学生さんもいっぱい参画していたんですけども、最近はある程度そういうところには、福岡市が支援制度を持っている割には手を挙げてくれないんですよ。ちょっと寂しいなっていうのもあるから、その辺りもちょっと何かもう1回、特にプラスチックとかそういう、身近にできる問題を今回絶対入れないといけないと思うんですけど、その辺りがちょっと寂しいなと、そのあたりちょっと今回加えないといけないかなという気がしています。

【委員】

うちの話が出ましたので、ちょうど10年前にお金もらって、うちの3年のゼミ生全員でやったんですよ。その前にも後にも特になくて、今うちのゼミは環境じゃなくて地域連携みたいなことやっているんで、そっちの方が面白いんですよ。

環境に関しては、トヨタソーシャルペースっていうのが、今、西日本新聞がやっていて、うちの学生も協力していますけど、そういう単発のものは、応募をかけるとある程度集まるんですが、日常的に何か環境のことをやれと言ってもなかなかやりませんね。その見返りは何だみたいな感じで、今の学生は聞いてくるので、それだったら例えば、一昨日MARKISとうちの学生とイベントやったんですけど、企画を全部自分たちでして、それで認められたときの醍醐味とか、そういう方が、今、学生にとってはやりがいみたいになっているんですよ。

ごみはごみで拾って、私も好きなので室見川でやるのは好きなんですけど、なかなかそれをいつもやれっていうふうにも言えないですし、だからそういう意味では、かつてうちの学生がやった、その人たちとやっぱり今の人たちで多分違うんだろうなと、モチベーションっていうか、全然今違うんだろうなと思いますよね。何かあればバイトですとか、頭が痛いですとか、

どこの大学でもそうだと思うんですけど、やっぱりそれを乗り越えて、実りあるものがないと、やっぱり学生は乗ってこないんじゃないかなっていうふうに思います。以上です。

【委員】

今、九州大学で福岡大学もそうだと思うんですけど、学生ベンチャーとかね、そういうのとかで、私も時々催しがあったら、聞きに行ったりするんですけども、環境系ってないんですよ、あんまりね。

ですから、そういうところも、もう少し、今こんなに世界的に環境が言われてる中で、やっぱり学生のそのベンチャーのテーマみたいなものにね、なんかそういうふうなものが入ってくるといいなあと思うんですけども、何かその辺の仕掛けというか、その辺がやっぱりないと、やっぱり意外と現実的ですよ学生はね。だからITとかそれから、今すぐにでも何か、大きなビジネスになりそうなものが結構出してくるような感じがするので、もう少し長いスパンかかるかもしれないけども環境というようなことがテーマになるような、何かベンチャーが出てくるといいなというふうに思いますけどね。

【委員】

今、「福岡未来創造プラットフォーム」っていうのができて、15大学と福岡中小企業経営者協会とか連合会と組んで、仕切り直しをして大きくなろうとしているので、そういうところにきちんと環境局として、分科会も今五つぐらいあって、NPOとしても関わろうとしているんですが、環境局として出てきていただいたほうがいいなというふうに思っています。

【部会長】

今、委員の方からそういう話がありましたが、エコ発する事業とかね、ファンドを持っているわけですね。だからそういうのは、やはり10何年かしてくると、マンネリ化してくるといいうところもありますので、そういうのを、そういうところの一部の支援に使うとか、そういうのは、事務局としては、なんかハードルあるんですか。今僕が理解しているのは、その代表が手挙げて申請してくれば、結構支援はできるんじゃないかなと思うんですけど。

【事務局】

環境市民ファンドを活用して実施しているエコ発する事業の中にも、U・30コースというのがあります、30歳以下の皆さんに活用していただける支援制度がありますが、対象となる方々の手が挙がっていないというのが実情であり、いかに広げていくかということを課題として思っています。

一方、今、先生方がおっしゃっていた学生達の意識というものが、今どこに向いているのかについても、これから調べていかなければならないと思っています。

今回見直しをするにあたり、広報啓発について環境局は今までどこをターゲットとしてきたのか分析をしているところです。現在行っている子供に対する広報啓発については、小学校4年生5年生を対象に、副読本を用いて授業を行ったり、専門的知識を持った講師の方に、自然についての授業をしていただいたりと、結構力を入れてきています。

しかし、やはりそのあと、中学、高校ぐらいになると、少し多感な世代になり、部活など色々なことで時間が取れないこともあり、環境に対するアプローチがあまりできてないというのが

実情です。様々な世代に対し、広報啓発を切れ目なく行っていくことで、学生達はその意識を持ち続けながら行動できるよう、今考えているところです。

また部会を進める中で、色々なご意見をいただきながら進めていけたらと思っています。

【部会長】

はい。ではそういうことで。冒頭で委員の方から、福岡らしさ、福岡の特徴も少しく見えるようなというのが、一つのキャッチコピーとしても意味があるだろうと思うんですけども、そういうのをちょっと考えて、今出していただいた7つ8つのいろんなアドバイスありましたので、そういうのを踏まえた形で、事務局の提案にあるような、新たな基本計画を策定するというので、環境審議会場で審議していくということで、基本的によろしいですかね。

事務局から提案のっております見直しに関しては、全員、異議なしということで、先に進めさせていただきたいと思います。

それでは次に、引き継ぎ事務局から、資料1の5以降、説明いただけますか。

【事務局】

(資料1の「5 検討体制(案)」以降について説明)

【部会長】

はい。ありがとうございます。それでは今提案があっているように、作業部会を作ってその中で具体化していくと、特に来年度にかけて、ある程度骨子とたたき台を作るということですが、今の提案でいかがでしょうか。

かなり細かい内容に対しても触れる必要が出てきますので、この委員だけでは足りない部分はオブザーバーとして、専門の方を招致するという形で考えておりますけどいかがでしょうか。

考えてみると、現行の計画をつくった時は結構タイトで、ひどいときには1週間毎にやっているような、かなりの回数を重ねたような気がします。あの時は全く白紙でやっていたので、今回は、ある程度たたき台とか、先進都市の事例もありますので、そこまではタイトではないのかもしれませんが、結構みなさんにご苦勞かけるとは思いますけれども、今回ご了承いただいたということで、作業部会を作って進めるということによろしいですかね。

特にないようであれば、基本計画を策定するにあたっての進め方については、事務局の提案で進めるということで進めさせていただきます。詳細の人選については、事務局と部会長で検討させていただきます。後日ご報告したいと思います。

それでは、議事につきましては大体、今の報告で続き決まりましたので、いただいた意見も踏まえまして、1月に開催する環境審議会におきまして、報告させていただきます。1月31日に日程が決まっておりますので、是非参加いただくようお願いします。

報告 災害廃棄物処理の広域支援について

【事務局】

(資料2について説明)

【部会長】

どうもありがとうございました。ただいま、また他都市に対する広域支援について報告がありました。何かアドバイス等ご意見ありましたらよろしくお願いたします。

【委員】

宮城県で、福岡市が選ばれたっていうのが、最初、私マネジメントの何か経験があるとかということで選ばれたのかなと思って、さっきの説明でははじめての経験というふうに聞きましたが、これは何か、順番に回ってくるじゃないですけども、どういうふうなことで選ばれたんですか。

【事務局】

循環型社会推進部長でございます。この件については、今回台風19号、その前から、台風15号以来、特に東日本で災害が頻発しておりまして、かなり広範囲で被災を受けてる、被害を受けた自治体もかなりございまして、当社周辺自治体での支援というのもあったのかもしれませんが、全国的な規模での支援が必要だということで、環境省の方から、九州地方、遠い自治体でありますけれども、ぜひ支援をとということで要請がございまして、伺うということになりました。

参考までに、近隣の町にも熊本市だとか北九州市も入っておりまして、もう全国規模で支援を行っているといった状況でございます。以上でございます。

【事務局】

福岡市は防災先進都市を目指しておりまして、やっぱり先ほどの武雄の件ですとか、やっぱりいろんな実績もありまして、是非マネジメントをと言うことで、小さな市町村は慣れていませんので、その辺の支援を是非ということで、お願いを直接環境省から受けまして、行ったものでございます。

【委員】

例えば、仙台にまで直通便が飛行機で出ているから、そういう利便性見てというのはあるんですか。

【事務局】

いえ、どこに行かされるかというのは全くわからない状態で、環境省の方にお任せですね。それで環境省のほうから、是非角田市へということで、福岡市が特に希望したわけではありません。

【委員】

それまでは、何の繋がりもない自治体なんですか。

【事務局】

そうです。

【委員】

わかりました。

【部会長】

はじめて行くところは、地理もわからないし、時期によっては急にこられても困りますということになります。ちょっと、ミスマッチングのともあるんですよね。例えば神戸なんかのときなんかは、メインの道路が全部やられているために、必ず神戸市の方が横に乗らないと、脇道がわからないんですね。今みたいなナビゲーションがなかった頃ですから、そうすると時期によっては、もう忙しい時と言うと悪いんですけど、手もないときに来られたら身動きが受け取れないということを昔聞いたことがあります。

だから今回みたいにマネジメントぐらいだといいいけど、実際の実務をするということになった時は、ある程度経験がないと、なかなかその戦力にならないかなという感じするんです。

それともう1点は、武雄市の場合は近かったんですけど、その前提としては、やはり福岡市の施設が、今ちょっと火事になっているんですが、完全に動いておかないとどうしようもない。だからそういう面では、ある程度の維持管理のレベルを一定にしておかないといけないんじゃないかというのと、ある程度慣れとかなないと、そういうところの人事的な問題っていうのもちょっとね、気にはなるところですね。

【事務局】

実際、北九州市はちょっと工場が閉鎖した期間があって、ほとんど北九州市の分も福岡市が受け入れたということで1,000トン以上の規模になりました。

それから、角田市の方は実際の実務も支援をしてくれておまして、国への補助申請の関係でありますとか、宮城県とそれから環境省と福岡市とまた同じように九州から来た熊本市とか、来ていた各自治体が連携会議みたいな定例会みたいな会議もしながら進めていったということで、非常にうまくマネジメントできたケースだったというふうに思っております。

【部会長】

今行かれた人達のそういう経験というのを共有するというのを環境局の中でやってもらったほうがいい。そうしないと、昔に昔に比べると人事で流動的なので、やっぱそういう、せっかくの、経験を共有するようなのをちょっと考えてもらったらいいかないかなという感じはしているんですが。

【委員】

先日、廃棄物学会主催の図上演習では、福岡市の方とかふくおか環境財団の方にたくさん参加いただいて、色々な人に色々な知識を皆さん披露していただきました。そういったことを通じて、市の中だけじゃなくて学会とか大学とも連携して、もっと今後も引き続き取り組んでいただければ、我々としても大変助かります。

それと、最近大学生の結構ボランティアが盛んで、大学の方もそれをマネジメントするのは

結構大変で、安全性とかも考慮しながら、勝手に行くなみたいな話もあって、これは災害ボランティアだけじゃなくて海岸清掃とか、結構地域連携でごみ拾いしてそのあとみんなと地域の人とお飲み会とかお祭りやるとか、そういうことも結構活発になってきていますので、それは福岡市の西区とか糸島市周辺は、割と結構あって、そういったところも、我々もちょっと情報提供したいと思いますので、市の今後の施策の中で、予算付けしていただけるのであれば、もっと学生の参加も増えるかなと思います。

【部会長】

はい。どうもありがとうございました。その他に何か。よろしいですか。

ちょっと話が前後したんですけど、プラスチックごみは政府がかっこいい話しているけど、国際的に見るぱっとしない。日本の言っていることは何か話だけは格好いいけど、イメージ具体性がないと指摘を受けてんですけど、福岡市としてはプラスチック戦略に対して、今議論されている話はあるんですか。全然よく内容知らないんですが。

【事務局】

プラスチックごみについてですけども、今部会長がおっしゃったとおり、具体的に何を出していくかっていうところもございますので、今まさに議論をしているところでございまして、また部会委員の皆様方からもいろいろご助言をいただきながら、これから詰めていきたいというふうに思っております。

【部会長】

ちょっと提案なんですけど、ラブアースをやっていますよね年1回。あれも結構長い実績があって、元々は4・5人でマリンスポーツやっている人が自主的に遊ぶ場所を綺麗にしようとやっていたんですけど、ラブアースの中で集めたごみの組成でプラスチックがどれくらいあるのかというデータはとっているんですか。

【事務局】

今年のラブアースの中で、福浜海岸と壱岐の松原海岸の2ヶ所で、組成調査を行っております。実際はやはり9割がプラスチックという結果も出ておりますので、この辺は、うまく今後の啓発にもしっかり数字を使って、お示ししていきたいと思っております。

【部会長】

ある程度量はわかっていますよね、これくらい集めたという。他の市町村がどれだけ参加しているかわかりませんが、福岡市が中心となって行っている事業なので、そういう過去のデータを持っておけばPRになるんじゃないかと思うんです。

会議で呼ばれていった時も行政がそういう説明を何もしないんですよ。これから検討しようとしていますか、とってつけたように夜間収集やっていますとか、福岡方式の話が出たりするわけです。それとはちょっと次元が違うんでね。

やっぱり、せっかく長期にわたってやっていて一過性ではないので。

あるいは、うちの大学で「はかたわん海援隊」というのをやっていますが、ああいうのでも組成をやりなさいとずっと言っているんですけども、ただ拾ったら市にお願いして持って行っ

てもらいましたぐらいの発表しかしていないが、それじゃいけないと。

それとすると、結構、データとしては非常に意味があるし、いろんなとこに使えるかなという気がしていますので、できたらそのプラスチックがらみで、そのアドバイスをしっかりしていただければ、PRになるんじゃないかと思うんですが。

【委員】

今年から「リフィルジャパン」の窓口をしているんですけど、マイボトルが増えたときに、それがなくなったらペットボトルをやっぱり買ってジャーと入れるっていうことを防ぐために、無料水っていうか給水スポット増やすっていう活動をしているんですけど、これ非常に有効でリフィルジャパンとマイ水っていう両方を全国的にもやって賞とかも取っていると思うんですが、これを飲食店とかホテルとかで給水ができるよっていう表示とかを増やしていくのは非常に有効と思います。

もう一つは、NPOとパタゴニアとかと一緒に「3デイズプラスチックチャレンジ」っていう活動していて、まず3日間ワンウェイのプラスチックを使わない暮らしにチャレンジしてみようっていう、これが非常に好評で、今インドとかベトナムとかでもしてもらったりするんですが、この間、RKBにも取り上げてもらって、非常に有効でした。

それがさらに福津市でもこれをするっていうことで、この間イオンでこれに対する何かアクションを通りがかりの人にしてもらったら、200人ぐらいの方がいろいろ書いていただいて、自分の家でプラスチックを増やさない減らす活動こういうふうにしていますっていう掲示をバーっとしてくれるんですよ。これの由来っていうのはアメリカで、プラスチックチャレンジっていうハッシュタグをつけて、それをみんなでシェアして高めていくっていうことが成功していたので、福岡発信で3デイズプラスチックチャレンジっていうハッシュタグ付けてしているんで、是非よかったらこういったのも活用してください。

【部会長】

今、委員からアドバイスいただきましたが、海外に行ってみると、外食産業のどこにも大きい横断幕をして、そして、私たちは、NOプラスチックを言いましょ、というのが、もうあっちこっち飛行場なんかにはぶら下げてあるという動きをしていますので、例えば、福岡空港なんか新しくなっているところで、めんたいことか何かお菓子ばっかりの宣伝やなくて、やっぱりたまにはそういう、福岡市のロゴか何か入れてやるのもよそから来た人達にもインパクトあると思うんですよ。

この間、たまたま施設課の方とヤンゴンに行って、会議の時はついこの間までペットボトルだったんですけども、日本の製品でキャップがちょっと硬いですが、ガラス瓶のキャップでリサイクルできる。早いなと思ってね。だから、そういう中央政府、役所がもう動き出したっていうのは、一つの参考になるかなと。そういうぐらいのスピードがないとこのプラスチック関係は解決しないんじゃないかと思います。

【委員】

海の問題じゃなくて陸の問題なので、ライフスタイルどう変えるかと、若者をどう巻き込んでするかっていう、これ絶対若者が参加してくれるので、実際そのフォーラムをしたら、そこから活動スタートしたグループとかも立ち上がったとかしていますので、是非、若者向け

のSNSを中心に発信できるような参加型の何か参加する余地を残すのが広がるらしいんですよね。そういった形で広げていけるものを推奨します。

【部会長】

今後、見直しをやりますし、何かあれば。

【委員】

ちょっとプラスチックと関係ないんですけど健康増進法ですかね、あれが厳しくなって、うちの大学も、4月からたばこ吸える場所がなくなったはずなんですけども、先週うちの学生が調査したらですね3ヶ所吸える場所があるっていうことがあってですね、福大も全面禁煙なんですか。

【部会長】

全面ではなくて、残っていますよ。建物の中ではだめですが。

【委員】

それでうちの学生、何か面白いところ目つけて、どこに灰皿が移ったかとか、あと、それによってタバコ吸いながらコミュニケーションが著しく無くなったんで、繋がりが薄れたとかいろいろ分析しているんですけど、それとはちょっと別に、大学の境目のところに吸い殻がものすごい落ちていてという現象が起きて、この辺りは多分福工大が一番早かったと思うんですけど、私もつき合いがあった時、2011年か12年ぐらいにも全面禁煙したと思うんですけど、そしたら、みんな大学の外のところに行ってバンバン吸ってんですよね。だから、大学の形に吸い殻のアイランドができるみたいなですね、まさにうちの大学も今そんな感じになっています。だから、灰皿を無くすなら無くすで、また新たな問題が起きてきているということで、吸い殻、微々たるものなんですけども、結構何百本とか落ちていて、非常に見栄えが悪いですし、それだけを捨てるという話なんで、その法律の強化と引き換えに、大学に限らないと思いますけど、吸い殻がいろんなところに落ちていてというのを、ちょっと目つけていただいて、何かやっていただくと、先駆的で面白いんじゃないかなと思います。

【部会長】

九大はどうですか。

【委員】

今年9月から全面禁煙になりましたけど、先週の教授会の時にリストが出ていました。何月何日に何本見つけた、日付も全部記録していて、そういう状況なんでなかなか同じような感じだと思います。

【部会長】

我々のところは、先生が反対する人がいるんです。ヘビースモーカーの先生達がおられてね、けども基本的には、キャンパス内ではもう駄目だということなんですけど、似たような感じです。ただペットボトルとか、弁当とかそういう殻の調査をもう30年近くずっとやっているんです。

データを出せと言ったら出せるんですが、そういう基礎データがいろんなところにあると思うんで、それをある程度要約される。何となく、福岡市がプラスチックごみ対策やっていますよと言っても何かイメージ出てこないんですよ、何をやっているんだろうという。そういうデータを整理されると、次の施策を打つのに役に立つのではないかと思います。

たばこに関しては、勤務時間は吸えないと役所はなっているわけですよ。とにかく、知っている人は知っているけど、そこまで徹底してるのはあんまり、情報として流れてない。

あとはもう食べ残しと生ごみ、このあたりもなんかちょっと、非常に、福岡の場合は、施策として、何か前面に出さないかね。これだけホテル数も増えていますから。

【委員】

食品ロス削減は企業の義務でもあるので、やっぱり生ごみは基本飼料化、飼料として食べさせるか、やっぱり堆肥として、物は物として循環させるっていう物質循環でやっぱ資源循環共生圏っていうのがあるから、やっぱりそれを回る仕組みを、是非して欲しいなと思います。私たちもう4年ぐらいローカルサイクリングっていうモデルを、照葉で始めたんですけど、今、美和台も高齢者の見守りを兼ねた活動にもなっているし、天神でも今始まっているんですけど、みんなで生ごみを野菜に変えようっていうムーブメントが土地がないにもかかわらず、すごい広がってきているのでニーズもあるし、やっぱり美味しく楽しい活動として若者が参加できるような仕組みを、是非一緒にやりたいと思います。

【委員】

食品ロスの件で、確か国ではないかどうかわかりませんが、持ち帰りを推進しようっていうような情報がこの前からちょっと出てましたけれども、福岡市の場合は宴会などで、食べ残しをなくそうというのは随分されていますけれども、アメリカなんかではもうドギーバック（持ち帰り容器）で持ち帰りが当たり前なんですよね。もちろん、その自己責任でっていうことに則ってですけども、例えば、事業者とやっぱりきちっとお客さんが話をするとか、情報を事業者がちゃんと提供するというのをしないと、トラブルになると思うんで、でも行政としてはその辺がちょっとまだ、見えてこないんですけども、その辺はどうですかね。

【事務局】

事業系ごみ減量推進課でございます。「もったいない！食べ残しをなくそう福岡エコ運動協力店」の中には持ち帰りに対応している店舗というのも当然ございまして、それはそこで声かけ等やっていただいておりますけれども、やはり国の情報とかでもありますとおり、やはり食品衛生の観点から、事業者そのものが躊躇する部分っていうのも当然ございます。

実際、例えば敬老会の弁当を持って帰って食中毒になって、飲食店が処分されたという事例もゼロではございませんので、その辺がやはりどうしても市民の中で市民が納得して持って帰ったにもかかわらず、例えば家族が、体調悪くしたということになってくるとどこが原因かっていうところとかもございまして、そこ辺の後々のシステムそのものが今できていない状況の中で、市としてそれを推奨して推進するっていうところが、保健福祉局との調整がまだ行ってないというような現状でございますので、当然持って帰るっていうドギーバックみたいなところは必要に有効な施策だとは思っておりますけれども、そのあと、持って帰る人がどういう意識で持って帰るのかとか、そういうところまで含めてやはりその辺をきちんと伝えていかな

いと、なかなか進んでいかないのかなというふうに考えています。

【委員】

パーティーの食べ残し、やっぱりすごく多いなと私も出ることが多いので、その辺はもう少しホテル側と協力するというか、やっぱりなるべく食べ残しをしないようにしましょうとか。それから、この前バイキングでお昼食べてきたら、ステッカーが机ところに貼ってあったんですよ。とにかく、取り過ぎないように残さないだけ取ってくださいって、残した方については、500円いただきますと。その下に、それをわざわざユニセフに寄付しますっていうふうな書き方がされていて、とってもいいなと思ったんですよね。ただ500円取りますとなれば、なんかいやらしい感じしますけれども、ユニセフに寄付しますというふうに書いてあると、心に訴えるんじゃないかと思うんですよね。

ですから何かそんなきめ細かい、やっぱりたくさん食べ残し出たり、取りすぎたりというようなところの、企業との協力というか、そういうふうな指導が少し、もう少し市もしていいんじゃないかなというふうに思います。

【事務局】

ビュッフェとかそういったところについては、当然今後協力店の方向性の中では拡大していきたいというふうに考えています。

ただ一方で、宴会につきましては、やはり客側、注文する側がですねやはり豪華に見せたいというところで、その辺の適量注文という意識の投げかけをしてもなかなかご同意いただけないという話も聞きますので、そこについてはやっぱり、どうしてもその双方への働きかけというのが必要になってきますので、部長もなかなか広報が下手とおっしゃられましたけれども、その辺は重々認識しておりますので今後いろいろ工夫をして参りたいと考えております。よろしくをお願いします。

【部会長】

そういうやり方ですね、何か非常にユニークな取り組みをやっている企業だとか、レストランとかあれば、好事例とかの情報を集めていただければ。

【事務局】

うちの方でもそういった進んだ飲食店とかを紹介するDVD動画の撮影とか、そういったこともやっておりますので、アンテナをたくさん張って、そういう店を集めて、いろんなタイミングで紹介していきたいと思っています。

【部会長】

今回、作業部会を作ってさせていただくのに、そういう関係の人もアドバイザーとして入っていただいて。

そのほかに何かありませんでしょうか。ないようであれば、今日用意された議事と報告は以上になりますけれども、今までいろいろ貴重な意見をいただきましたので、皆様からいただきましたご意見を踏まえまして、1月31日の環境審議会におきまして、今日の話を含めまして、見直しの件等を報告させていただきたいと思っております。それでは議事進行を事務局にお返し

いたします。

【事務局】

部会長，部会委員の皆様，ありがとうございました。これで本日の環境審議会，循環型社会構築会を終了いたします。皆様，本日は長時間にわたり，誠にありがとうございました。